

Syllabus Id	syl.-092572
Subject Id	sub-092007650
更新履歴	20090327新規
授業科目名	経済学 ECONOMICS
担当教員名	小倉将志郎
対象クラス	全学科・5年
単位数	2履修単位
必修 / 選択	選択
開講時期	21通年
授業区分	
授業形態	講義
実施場所	

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

昨今重大な社会的関心事となっている「サブプライム問題」も「派遣切り問題」も、経済学の範疇で捉えられるものである。そして経済学のベースである経済理論はこうした諸現象を論理的に理解・説明するうえできわめて重要である。本講義ではそうした経済理論の基礎を学ぶ。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

学習・教育目標	Weight	目標	説明
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成

学習・教育目標の達成度検査

1. 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。
2. プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。
3. 目標達成度試験の実施要領は別に定める。

授業目標

本講義では、オーソドックスな経済理論の基礎を中心に学習する。経済学における経済理論はさまざまな経済的諸事象が発生する因果関係を論理的に説明しようとする分野である。本講義の第一の目標は、そうした経済理論を学ぶことで現実が生じている経済的諸事象を捉える大きな視点を身につけること、つまり経済理論の有効性を認識することである。一方で経済理論は論理展開の過程で現実を抽象化したり、多くの条件を捨象したりするために、現実が生じている経済現象との間には常に乖離が存在することになる点は注意が必要である。本講義の第二の目標は、経済理論によって現実の経済現象をどこまで説明できるのか、逆に何が説明できないのかを認識すること、つまり経済理論の到達点と限界を知ることである。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション		
第2回	経済学は何を学ぶか	主流派経済学、ケインズ経済学、マルクス経済学	
第3回	マイクロ経済学の基	需要と価格	
第4回	マイクロ経済学の基	供給と価格	
第5回	マイクロ経済学の基	市場メカニズム	
第6回	マイクロ経済学の基	市場メカニズム	
第7回	マイクロ経済学の基	市場メカニズム	
第8回	マイクロ経済学の基	ゲーム理論の考え方	

第9回	マクロ経済学の基礎	GDPと三面等価	
第10回	マクロ経済学の基礎	GDPと三面等価	
第11回	マクロ経済学の基礎	GDPと三面等価	
第12回	マクロ経済学の基礎	物価水準、インフレとデフレ	
第13回	マクロ経済学の基礎	財政政策	
第14回	マクロ経済学の基礎	金融政策	
第15回	マクロ的に見た戦後の日本経済	高度経済成長まで	
第16回	マクロ的に見た戦後の日本経済	高度経済成長以降	
第17回	前期期末試験		×
第18回	後期オリエンテーション		
第19回	前期の復習	前期期末試験の解説中心	
第20回	市場の失敗	外部効果	
第21回	市場の失敗	公共財	
第22回	市場の失敗	情報の不完全性	
第23回	市場の失敗	費用逡減	
第24回	政府の役割	市場の修正	
第25回	政府の役割	所得再分配	
第26回	政府の役割	経済の安定化	
第27回	応用分野	金融市場を巡る現代的諸問題	
第28回	応用分野	金融市場を巡る現代的諸問題	
第29回	応用分野	労働市場と雇用を巡る現代的諸問題	
第30回	応用分野	労働市場と雇用を巡る現代的諸問題	
第31回	応用分野	社会保障を巡る現代的諸問題	
第32回	応用分野	社会保障を巡る現代的諸問題	
第33回	後期末試験		×
第34回	後期の復習	後期末試験の解説中心	

課題

未定。
質問等は授業後に受け付ける。

評価方法と基準

評価方法:

試験により評価する。前期末試験、学年末試験の他に、講義時間中に平易な小テストを数回予定している。

評価基準:

前期末試験(40%)、学年末試験(40%)、小テスト(20%)を予定。詳細については講義中に口頭で知らせる。

教科書等	小塩隆士『高校生のための経済学入門』(筑摩書房、2002年)をベースに講義を行う。その他参考図書等は適宜指示する。
先修科目	
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	
備考	1.試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。